

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102634		
法人名	社会福祉法人 奈良苑		
事業所名	学園前西グループホーム(2階春日)		
所在地	奈良県奈良市二名3丁目1148		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2970102634-00&PrefCd=29&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階
訪問調査日	平成28年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近年、開設以来10年近くたち加齢に伴う身体レベルの重度化や永眠される入居様が増加傾向である。そのため新規入居者様の割合も増えてきている。自立度の高い方から重度の方まで、少人数単位での外出レクを中心に幅広いケアを行っている。また排泄時間ももちろん食事時間などもGHならではのユニットケアを取り入れ、認知症が進行してもその方らしい暮らし方を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、奈良苑として特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービスなどの施設と隣接している。建物は、鉄筋4階建てで、2階、3階、4階に各ユニットがある。一人ひとりのニーズに合った大人ケアを目標に、個別ケアに力を入れている。また、内科、精神科、皮膚科、歯科の定期的な往診があり、看護師も常駐して健康管理を行っており、医療面で安心感がある。利用者が、人間(ひと)として楽しく過ごせることを目標にしている事業所である。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	寮母室に運営理念を張り出しており、会議などを通じて話し合いながら、実践に向けて取り組んでいる。	利用者個々が「人間(ひと)として在ること」「人間として過ごし」「人間として楽しみ」「人間として生きること」を法人の理念とし、職員で共有している。理念を実践するため、個別ケアに力を入れている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に、マンドリンのボランティアの方を招いての催し物がある。また喫茶のどか・奈良苑祭り・運営推進会議などを通じて、地域の方と交流する機会を設けている。	事業所は、地域の住宅から離れたところにあるが、法人全体のお祭りに地域の方も参加している。地域ボランティアが毎月訪問し、利用者の楽しみになっている。事業所に隣接する土地を地域の方から借りて、野菜や花をつくっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年6回の運営推進会議において、レクリエーションを通じた入居者との関わり、勉強会を通じた認知症の理解を深めることを実施している。奈良苑祭りでは入居者と一緒にご覧してもらうことで、支援の方法を体験して頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議において、各ユニットでの実践を紹介し、それについて意見交換を行い、そこでの意見をサービス向上に繋げている。	運営推進会議を2か月に1回開催している。運営状況や行事などを報告している。外部評価が行われていることを、知らない家族が多いため、当グループホーム発行の新聞に結果を載せる予定である。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者、ケアマネジャーなどが相談窓口となり、定期的に情報交換を行っている。	法人の本部が施設全体として市とは緊密に連絡を取り、連携している。法人全施設合同のお祭りの開催時には、市担当者の日程が合えば参加してもらえる。市や地域包括支援センターが主催する会議に参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部署やユニット個別での会議にて、定期的に理解を深める機会を設けている。実際に身体拘束は行っていない。	毎年、身体拘束や虐待についての研修を行って職員の理解を深めている。ベッド柵や車椅子ベルトなどの身体拘束につながることは行っていない。安全のため、エレベーターや玄関扉は、電子ロックをしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の会議や部署での会議にて、定期的に理解を深める機会を設けている。また他施設での出来事がニュースなどで報道されれば、管理者から改めて意識付けがあり、職員間でも話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者などは研修に参加している。それを活かし、スムーズなサービスが提供できるよう体制を整えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には書類を一つひとつ確認しながら説明を行い、理解、納得をしていただく中で契約を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡を通じて普段の様子をお伝えし、その時にご家族の要望を聞くようにしている。またケアプランをしっかりと説明し、その中でも意見交換を行って、実施反映させている。運営推進会議でも家族様代表より意見を頂戴し、職員で話し合う機会がある。	面会時に職員は家族に利用者の様子を伝えると共に要望等を聴いている。あまり面会に来れない家族には、電話で聴いている。ケアプランの見直し時には面談を行って、意見や要望などを聴いている。玄関に拝見箱も設置している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場職員はリーダーへ、リーダーは管理者へという流れの中で、日々の情報交換を行っている。また会議にも管理者が参加し、職員の提案などに助言を行っている。	日々の活動の中で、ユニットのリーダーが職員の意見を聴いている。大切なことは、月1回のフロア会議やリーダー会議に提案し話し合っている。職員に年間目標を立ててもらい、リーダーが年1回面談を行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、リーダーと職員の個別面談を通じて、悩みや想いを聞いている。必要であれば管理者に報告し、その改善策を講じている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では新人職員勉強会や中堅職員勉強会があり、経験年数やその立場に合わせた勉強会に参加できる。また法人外でもリーダー研修、認知症介護実践者研修、その他様々な研修に参加できるよう調整している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	祭りにて、他施設とお互いに祭りの手伝いをし合い、そこで交流の機会がある。また研修を通じての交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時から本人の要望に合ったサービスを提供するために、面接段階で意見交換を行っている。また実際に入所してからも本人のニーズを探り、安心を確保できるよう日々努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時にご家族からの要望を伺っている。その際、ご家族から様々な意見が出るよう配慮している。その後も面会や電話連絡などを通じて、ニーズを共有し、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接の中で多方面からのアプローチを行い、多くの情報を得られるよう努めている。またアセスメントや面接用紙もニーズを引き出しやすい書式にしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちや生活スタイルを大切に、人生の先輩として尊敬し、共により良い生活になるように協力し合っている。昼食は席を並べて同じものを食べ、そこから会話に繋げている。家事も出来るだけ一緒に行うようにしている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは気軽に話せるような関係を作るよう努め、本人の生活の様子を共有することを通じて、絆を深められるようにしている。またイベント時にはご家族にお知らせし、楽しいひと時を過ごせるよう支援している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話に置いて、本人の馴染みの人や場所を意識して話題にしている。また本人、ご家族からも情報を得られるよう努めている。定期的にご家族と外食される方もおられる。	職員が付き添って、馴染みのお寺や教会に出かけたり、行きつけの美容院に出かける方がいる。定期的に家族と外出したり、自宅に帰る方もいる。個別ケアを大切にして、馴染みの場との関係継続の支援を実施している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立しないように声掛け、雰囲気作りに配慮している。またお話し好きな方や、ゆったりと過ごしたい方など、本人の要望に合わせて座席の位置を決めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を断ち切ることなく、継続的に関わり、ご家族からの相談にも応じるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のニーズを探り、ケアプランに反映させている。またケアプランチェックシートを作成し、全職員が継続的に実践できるようにしている。	利用開始時に、面接して利用者の暮らし方の希望を伺うとともに、家族にバックグラウンドシートを書いてもらって、生活歴や好きなもの、行きたいところなど把握している。日々の生活の中でも、個別に利用者の希望を聴いている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族との会話を通じて、本人のこれまでの人生についての把握に努めている。また個人ファイルに生活歴などの情報が綴じられ話し合いに活用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との関わりを多く持つように努め、隠れたニーズを探るようにしている。また口頭やノートを使って職員同士で情報交換をし、全体的な本人の現状把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がケアプランの原案を作成し、担当者、リーダー、ケアマネジャー、管理者でカンファレンスを行い、ケアプランを作成している。ケアプランは家族に説明し、同意を得ている。モニタリングは毎月末に担当者が行い、3か月ごとに見直しを行っている。	利用者や家族の希望を聴いて、職員の意見を参考にケアプランが立てられている。毎日ケアプランチェックシートをつけ、毎月モニタリング結果をまとめ、3か月に1回、サービス提供者会議を行って、プランの更新を行っている。ケアプランが症状やADLとQDLが中心となっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、個別記録、連絡帳などを活用して、ケアについての情報共有を図っている。また定期的に会議を行い、ケアの見直しなども行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化により個浴の浴槽に入るのが困難な方は、同法人内の他部署へ機械個浴を使用する柔軟な対応を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるマンドリンなどの催し物がある。また運営推進会議にて、地域の方にも参加いただき、様々な協力をもらっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、精神科、皮膚科、歯科の定期的な往診があり、経過報告などもその都度させていただいている。その結果はご家族に報告している。	内科のかかりつけ医の往診が月1回ある。また、歯科医や精神科医、皮膚科医の往診が、定期的に行われている。個人のかかりつけ医の受診は、家族や職員が付き添って行われている。看護師も常勤し、健康管理を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護師があり、その時々で対応している。看護師は会議に参加し、その都度専門的なアドバイスをもらえる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して生活ができるよう、入退院時に病院関係者と情報交換を行い、医療機関との連携を図っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族と話し合い、医師の意見も聞きながら、要望に沿えるよう努めている。実際に2名の方のターミナルケアをさせていただき、専用のノートを作ったり、振り返りも行って次に繋げていけるよう努めている。	利用開始時に事業所でできることを説明し、「看取り介護に関する指針の説明確認書」に署名を頂いている。重度化した場合は、再度看取り介護の「事前確認同意書」を交わし、利用者や家族の思いに沿ってターミナルケアを実施している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	部署での勉強会を定期的に行っている。夜間緊急対応マニュアルも作成し、内容も分かりやすく、またすぐ目に付く場所に配置してある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で、避難訓練を年2回行っており、全職員が参加できるようにしている。避難マニュアルも作成されており、訓練の度に見直しもされている。また部署の勉強会でも、避難訓練や技術的な学びの機会を設けている。	隣接する同法人の特別養護老人ホームやケアハウスなどと合同で、消防・避難訓練を利用者も参加して、年2回行っている。各施設間で避難協力の体制をつくっており、法人全体として食料や水などの備蓄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合わせた、自尊心を傷つけない丁寧な声掛けを心掛けている。また居室の扉はその方の家の玄関と捉え、開きっぱなしにならないよう配慮している。	職員で言葉遣いの研修を行って、利用者の尊厳を傷つけないように支援している。プライバシーに配慮し、居室やトイレの扉を開いたまま介助をしないよう気をつけている。入浴やトイレ介助は、利用者の希望を聴いて同性介助を行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	イエスノーではなく、どうしたいかを答えられるような尋ね方を心掛けている。また言葉にして伝えられない方は、表情を注意深く観察しながら、本人の立場に立って判断している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間や食事排泄の時間は、その方の希望や生活のペースに合わせて臨機応変に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族から好みや要望を聞き、思い通りの服装を楽しんでもらっている。外出時には特に気を配っている。自身で洗顔できない方には、ホットタオルを用意して対応している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理が得意な入居者と日曜日の夕食やおやつ作りを一緒に行っている。昼食は席を並べて同じものを食べ、そこから会話に繋げている。	食事は、朝食とおやつ、日曜日の夕食はグループホームで職員が作り、その他は同法人の施設厨房で作られている。準備や片付けを利用者もできる範囲で行っている。また、3ヶ月に1回は、外出に出かける。利用者の食事のペースを特に大切にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物ではお口に合うものとなるよう、一人一人個別のものを提供している。ストローをつけると良く飲まれるようになった方もおられる。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを声掛けしている。自分で出来ない方は、職員が介助している。また週1回の歯科衛生士によるケアがあり、口腔ケアには力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表から排泄リズムを掴み、失敗の無いように調整している。パットの種類や当て方も職員間で話し合い、より良いものとなるよう努めている。	ほとんどの居室にトイレが設置され、夜間も利用しやすい。利用者の排泄パターンを記録し、適切なタイミングの声かけやトイレ誘導を心がけている。夜間は安眠のため、オムツを付ける方もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ヨーグルトを提供し、個別にプルーン・牛乳を提供して、自然排便を目指している。また運動や腹部マッサージも出来るだけ行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴にてゆったりと、職員とコミュニケーションをとりながら楽しんでいただいている。またその方に合ったシャンプーなどを使い分けている。	各ユニットに個人浴槽が設置されている。入浴は週2回入ることができるよう支援している。利用者個々の希望を聴いて、入浴剤を入れたり、よい香りのシャンプーやリンスを使ったりして利用者が楽しめるよう工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者によって、昼寝の時間を設けている。また、クッションなどを使ってしっかりとポジショニングをし、ゆっくりと安眠できるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルには処方箋があり、すぐに確認できるようになっている。不明点は看護師に尋ねることが出来、把握できる体制の中で提供できている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月1回、合同レクや外出レクを行っており、季節に合わせた企画を考え、全利用者楽しんでいただいている。また個別に喫茶店にも行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り喫茶レクや外食の機会を設け、また他ユニットと協力しながら個別に音楽イベントやに夜景を見にお連れし、楽しんで頂いている。	月1回は、個別支援で買い物に出かけたり、食事に出かけたりしている。事業所に隣接しているユニット型特別養護老人ホームに広い屋上があり、景色を楽しむことができる。また、事業所の近くの畑を借りて、野菜作りをしており、天気の良い日は畑の様子を見に出かけている。	一目でわかる利用者の外出状況の記録と、利用者全員の計画的な外出支援があればさらに良いと思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、1名の方が個人で金銭管理をされている。定期的に近所のスーパーへ買い物に出かけ、好きなものを買って頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解があれば、電話・手紙でのやり取りが出来るよう支援している。個別に携帯電話を所持されている方もいる。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくエアコンを使わず衣類にて調整し、季節を感じてもらえるようにしている。空気洗浄機や加湿器を使用し心地よい環境を整えている。またフロアには、すぐに休憩できるようにソファを設置している。	居間兼食堂はとても広くゆったりとしており、開放感がある。居間の南側には広いベランダがあり、外気浴をしたりプランターで花や野菜を育てることができる。浴室には家庭用の個人浴槽が置かれ、使いやすい構造になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士にて、食卓の座席を決めさせてもらい、職員が様々な配慮をして、トラブルなくつるよう工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実際に使っておられた家電や家具・服を持ち込んで頂いている。家族の写真も置いておられ、居心地の良い空間となるよう配慮している。	ほとんどの居室にトイレと洗面台が設置されおり、快適に生活することができる。居室には馴染みの机や椅子、箆笥などが持ち込まれ、壁に写真や絵画が飾られて、居心地よく暮らせる工夫がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベランダを自由に行き来できるように配慮している。ベランダで園芸を行っており、入居者自身で水やりなどの世話をされている。		